

パソコンの設定方法について

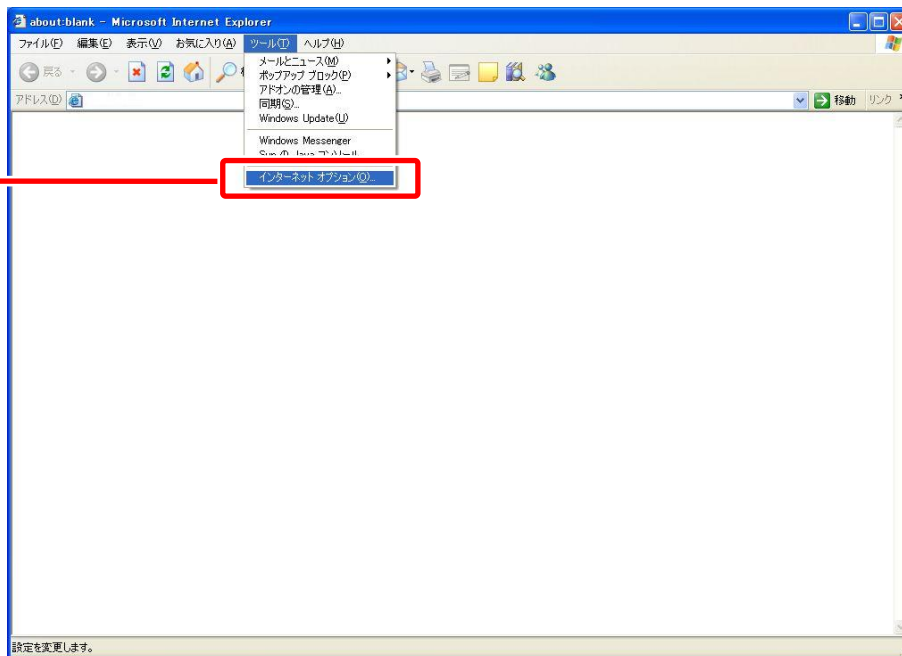
1. 信頼済みサイトへの登録

Step 1 Internet Explorer の「ツール(T)」-「インターネットオプション(O)」をクリックする

Step 2 「インターネットオプション」画面が表示される



「本システムを信頼済みサイトへ登録します」へ進みます



【 本システムを信頼済みサイトへ登録します 】

Step 1 「セキュリティ」タブをクリックする

Step 2 信頼済みサイトををクリックする

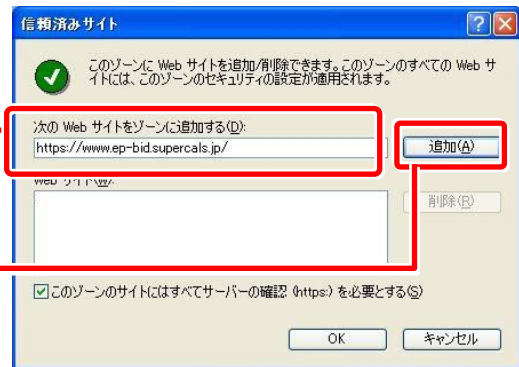
Step 3 サイト(S)ボタンをクリックする

Step 4 「信頼済みサイト」画面が表示される

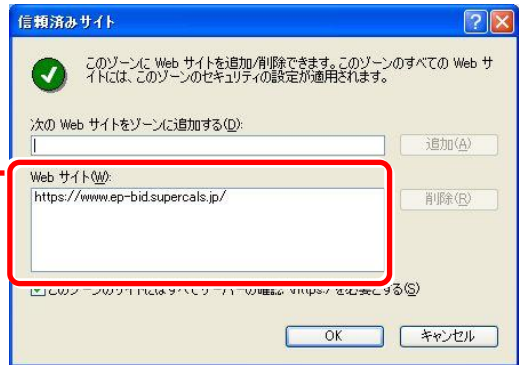


Step 5 次の Web サイトをゾーンに追加する(D)に「<https://www.ep-bid.supercals.jp/>」と入力する

Step 6 追加(A)ボタンをクリックする

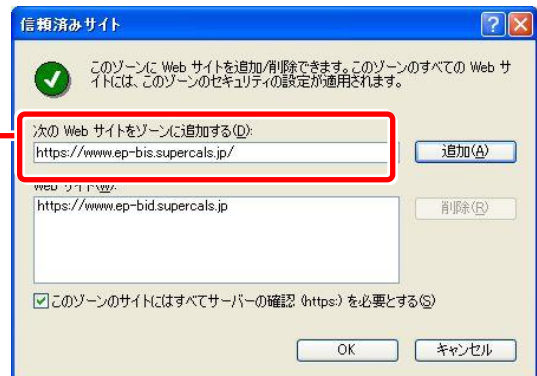


Step 7 Web サイト(W)に入力した URL が表示される



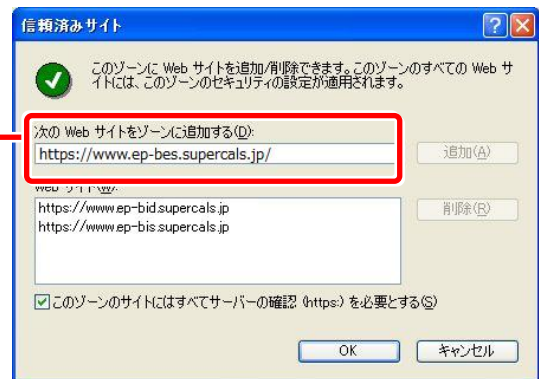
Step 8

「Step 5」と同様に
「<https://www.ep-bis.supercals.jp/>」と
入力し、「Step 6」～「Step 7」を繰り返す



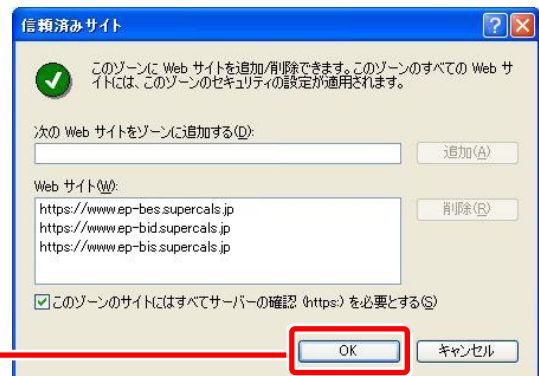
Step 9

「Step 5」と同様に
「<https://www.ep-bes.supercals.jp/>」と
入力し、「Step 6」～「Step 7」を繰り返す



Step 10

OK ボタンをクリックする



Step 11

「インターネットオプション」画面が表示される



「信頼済みサイトのセキュリティレベルを確認します」へ進みます

【 信頼済みサイトのセキュリティレベルを確認します 】

Step 1 「このゾーンのセキュリティのレベル(L)」を確認する

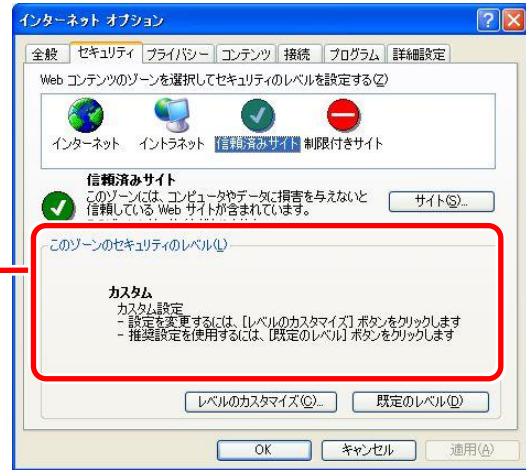


レベルが「低」の場合

ここで設定終了です。

レベルが「低」以外の場合

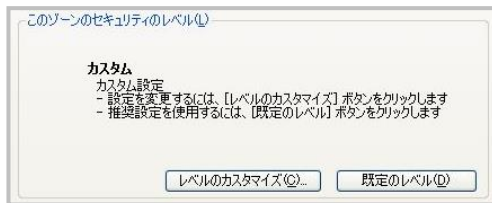
下記の注意をよく読み、「信頼済みサイトのセキュリティレベルを設定します」へ進みます。



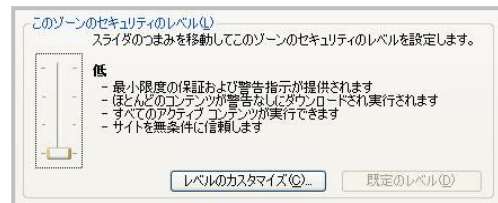
注意

セキュリティレベルが「カスタム」になっている場合は、他のシステムを使用するために設定が変更されている可能性があります。セキュリティレベルの設定変更を行っても問題がないか確認してください。変更ができない場合は、別に専用のパソコンを準備するなどの対策をお願いします。

レベルが**【カスタム】**の場合



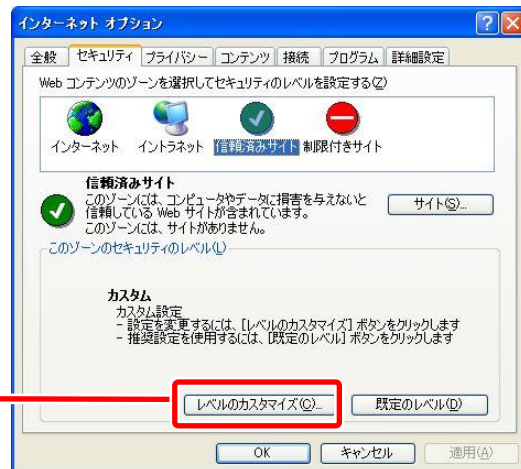
レベルが**【低】**の場合



【 信頼済みサイトのセキュリティレベルを設定します 】

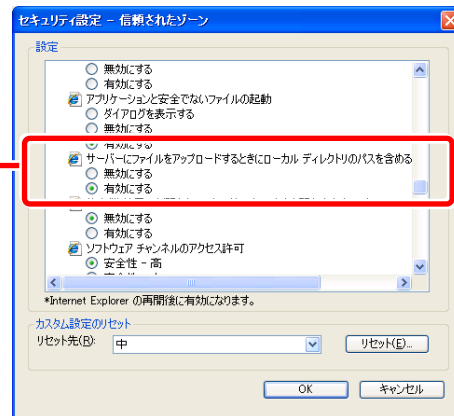
Step 1 レベルのカスタマイズ(C)ボタンをクリックする

Step 2 「セキュリティの設定」画面が表示される



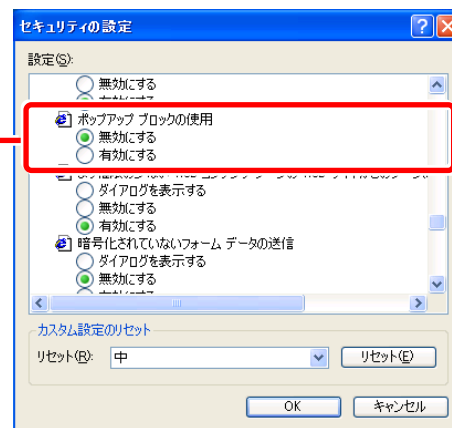
Step 3

「サーバーにファイルをアップロードするときローカルディレクトリのパスを含める」を「有効にする」に設定する



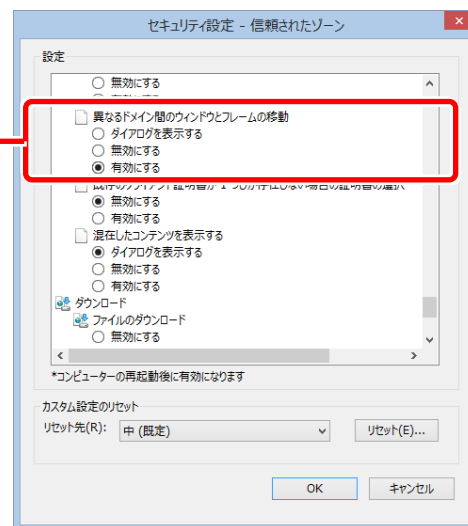
Step 4

「ポップアップ ブロックの使用」を「無効にする」に設定する



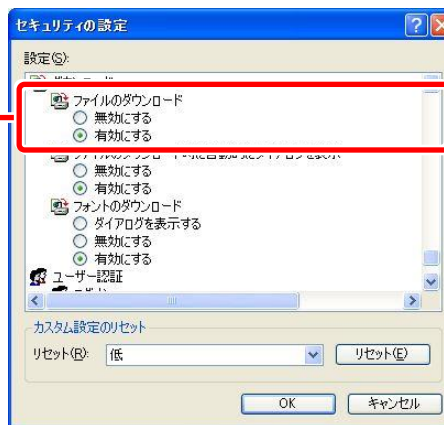
Step 5

「異なるドメイン間のウィンドウとフレームの移動」を「有効にする」に設定する



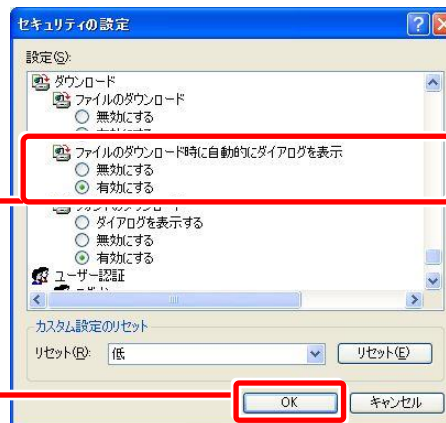
Step 6

「ファイルのダウンロード」を「有効にする」に設定する



Step 7

「ファイルのダウンロード時に自動的にダイアログを表示」を「有効にする」に設定する (Internet Explorer 8 のみ必要)



Step 8

OKボタンをクリックする



ワンポイント

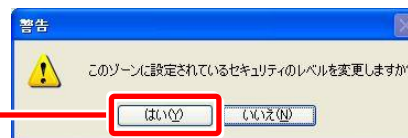
Internet Explorer のバージョンによっては、Step3～Step7の項目がない場合があります。その場合は設定を行う必要はありません。

Step 9

「このゾーンに設定されているセキュリティのレベルを変更しますか？」画面が表示される

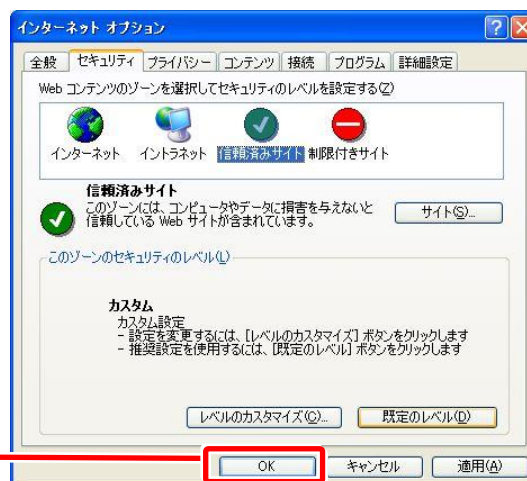
Step 10

はい(Y)ボタンをクリックする



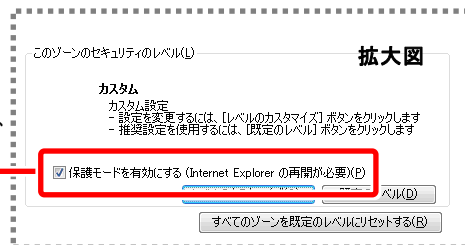
Step 11

「インターネットオプション」画面に戻るので、**OK**ボタンをクリックする



ワンポイント

Internet Explorer7で表示される、「**保護モードを有効にする (Internet Explorer の再開が必要) (P)**」のチェックは、有効・無効どちらでもかまいません。



SOS

お困りのときは

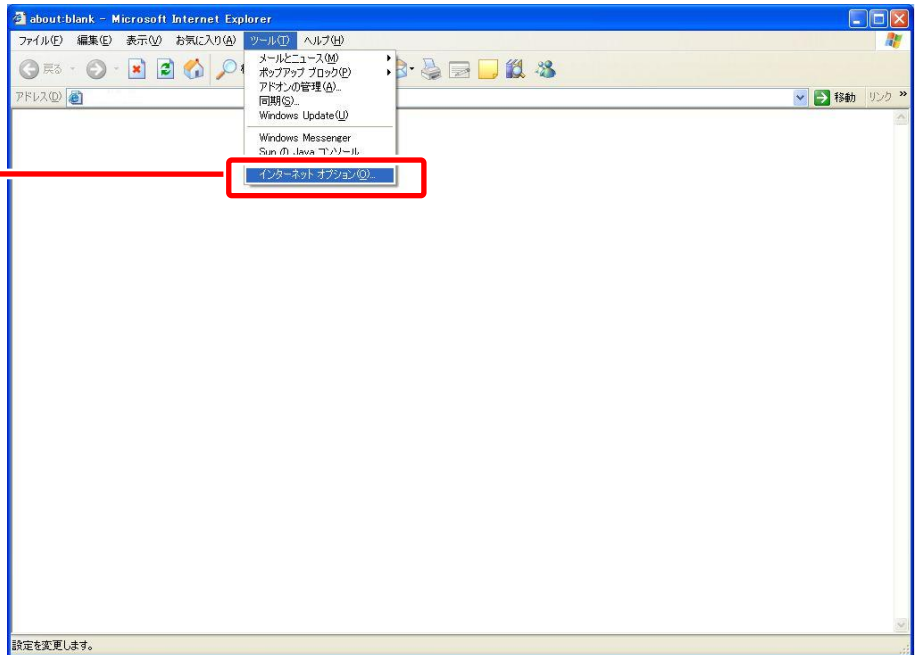
信頼済みサイトの設定をしてもシステムが正常に動作しない場合

ご利用のパソコンの Internet Explorer に、機能拡張ソフトウェア (例: Yahoo ツールバー、Google ツールバー、MSN ツールバーなど) が組み込まれている可能性があります。この場合は2. サードパーティ製のブラウザ拡張を無効にする を参照し、サードパーティ製のブラウザ拡張を無効にしてください。

2. サードパーティ製のブラウザ拡張を無効にする

Step 1

Internet Explorer の [ツール(T)]-[インターネットオプション(O)] をクリックしてください。

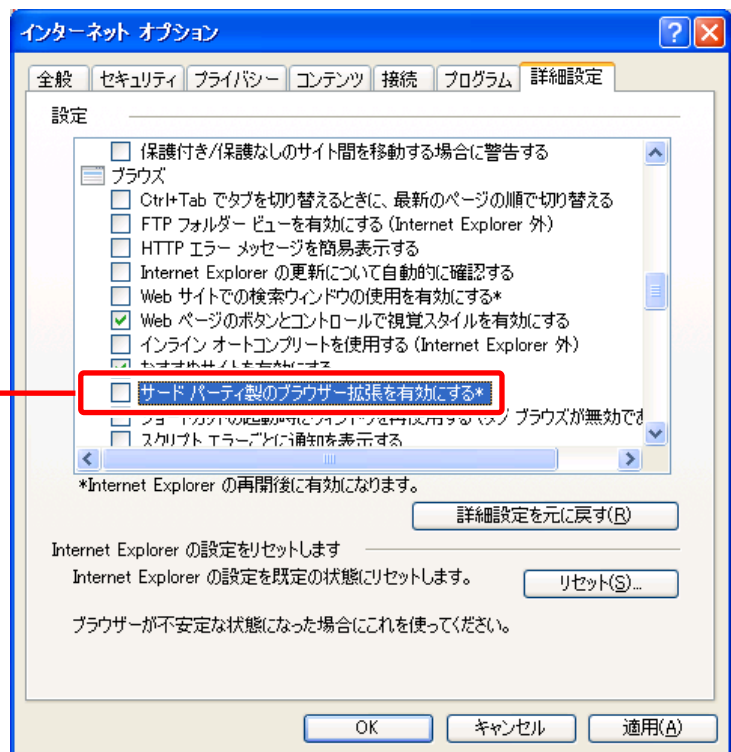


Step 2

[インターネットオプション]画面が表示されるのを確認してください。

Step 3

[詳細設定]タブ-[ブラウズ]-[サードパーティ製のブラウザ拡張を有効にする]のチェックを外し、無効に設定してください。



Step 4

設定完了後、[OK]をクリックし、画面を閉じてください。

Step 5

全ての Internet Explorer を × ボタンで閉じてください。



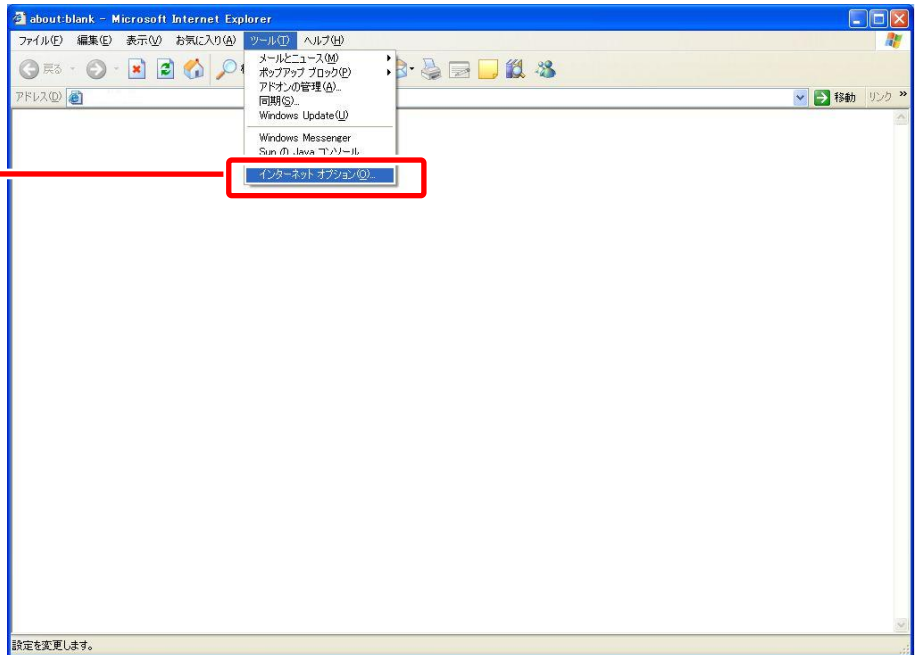
ワンポイント

端末によっては、設定項目が「サードパーティ製のブラウザ拡張を有効にする」ではなく、「Enable third-party browser extensions」と表示されている場合があります。

3. TLS1.2 を有効にする

Step 1

Internet Explorer の [ツール(T)]-[インターネットオプション(O)] をクリックしてください。

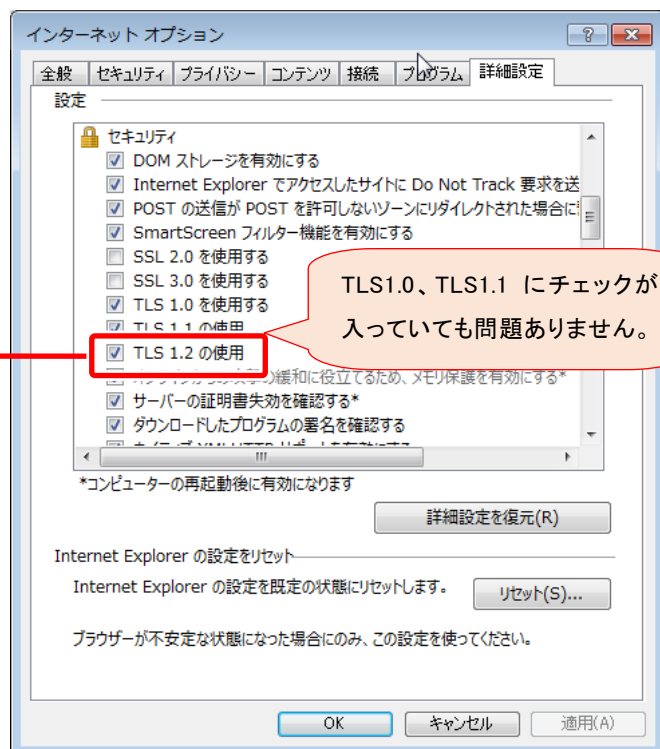


Step 2

[インターネットオプション]画面が表示されるのを確認してください。

Step 3

[詳細設定]タブ-[セキュリティ]-[TLS1.2の使用]のチェックをつけ、有効に設定してください。



Step 4

設定完了後、[OK]をクリックし、画面を閉じてください。

Step 5

全ての Internet Explorer を × ボタンで閉じてください。

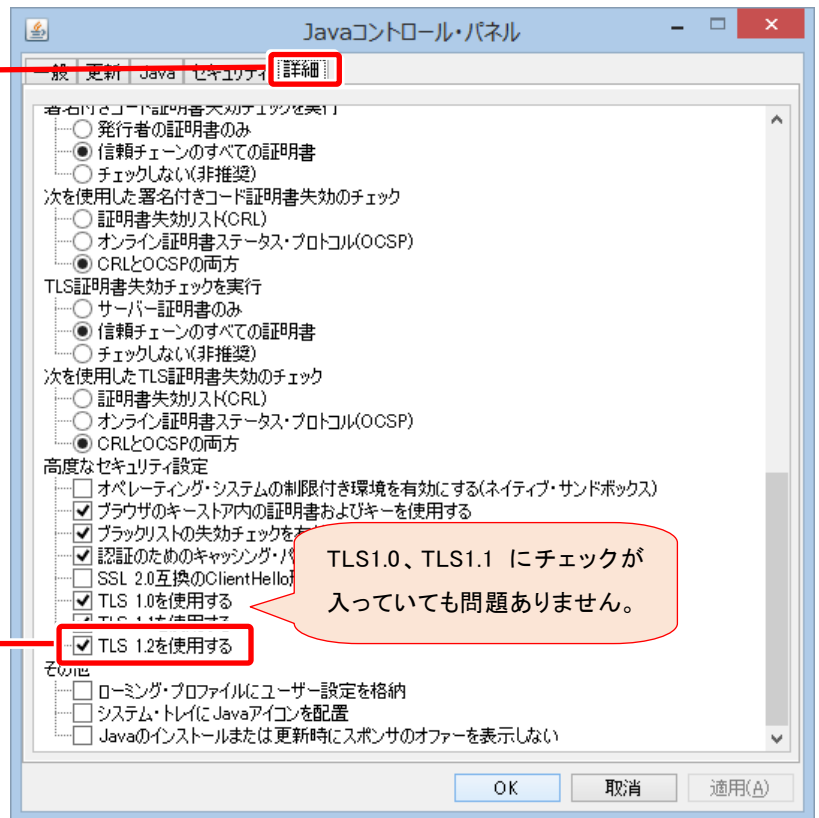
Step 6

「コントロールパネル」を開き、「Java」をクリックし、「Java コントロールパネル」を立ち上げてください。



Step 7

「詳細」タブを選択してください。



Step 8

[高度なセキュリティ設定]-[TLS1.2 を使用する]のチェックをつけ、有効に設定してください。

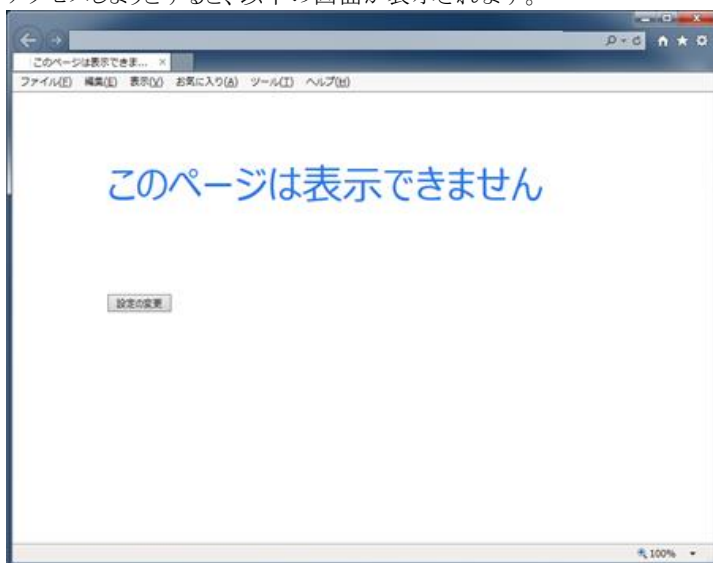
Step 9

設定完了後、[OK]をクリックし、画面を閉じてください。



注意

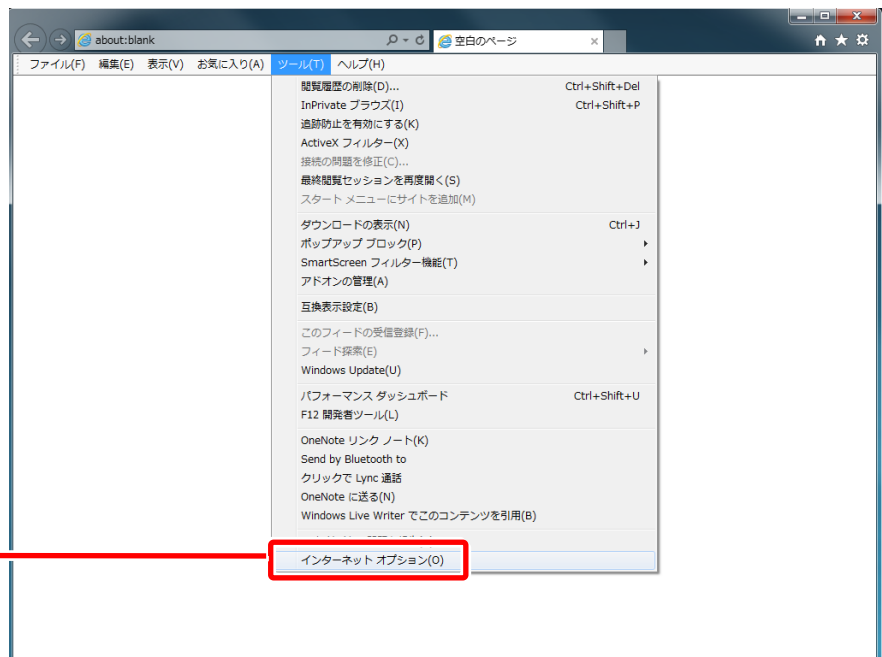
- ① TLS1.2を「使用しない」設定になっている場合は、電子調達システムにアクセスができなくなります。アクセスしようとすると、以下の画面が表示されます。



- ② ご利用の OS・Internet Explorer のバージョンによって、選択できる項目が異なります。

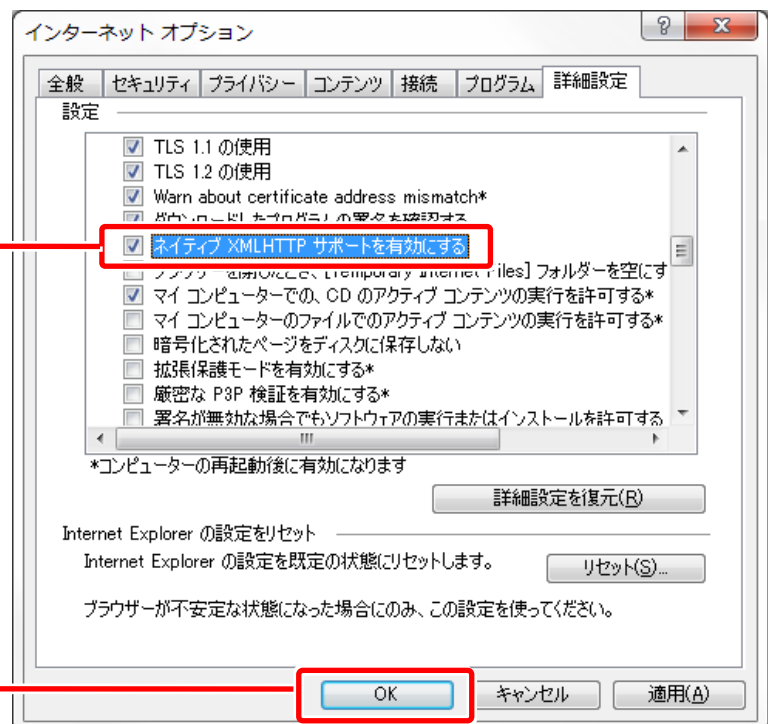
4. ネイティブ XMLHTTP サポートを有効にする

Step 1 Internet Explorer の [ツール(T)]-[インターネットオプション(O)] をクリックしてください。



Step 2 [インターネットオプション]画面が表示されるのを確認してください。

Step 3 [詳細設定]タブ-[セキュリティ]-[ネイティブXMLHTTPサポートを有効にする]にチェックを入れてください。



Step 4 設定完了後、[OK]をクリックし、画面を閉じてください。

Step 5 全ての Internet Explorer を × ボタンで閉じてください。

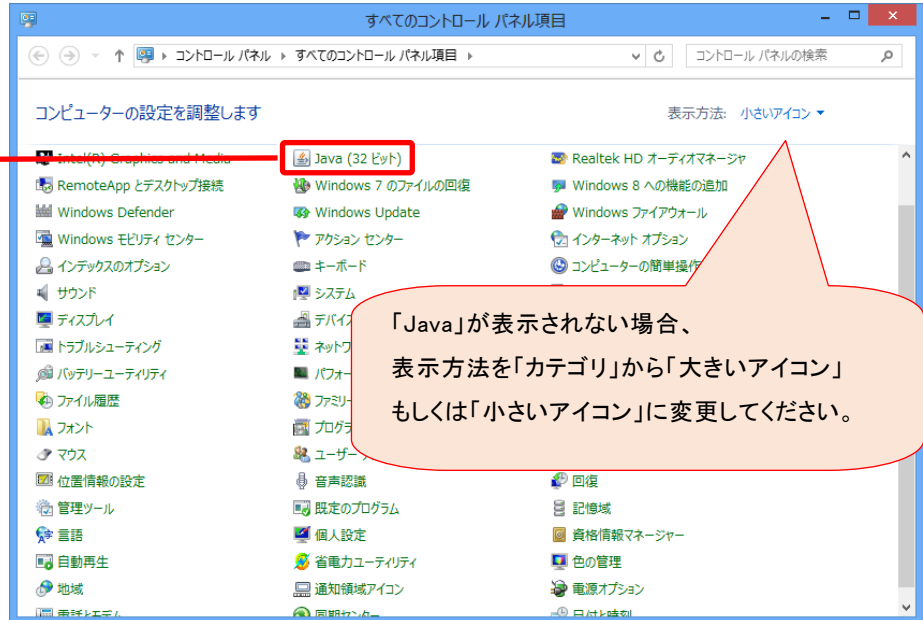
5. 例外サイト・リストを追加する(JRE8 をインストールしている端末のみ)

※例外サイト・リスト追加は、各認証局により手順が異なるため、各認証局の HP 等をご確認ください。

ご参考として、以下に直接追加する手順を記載いたします。

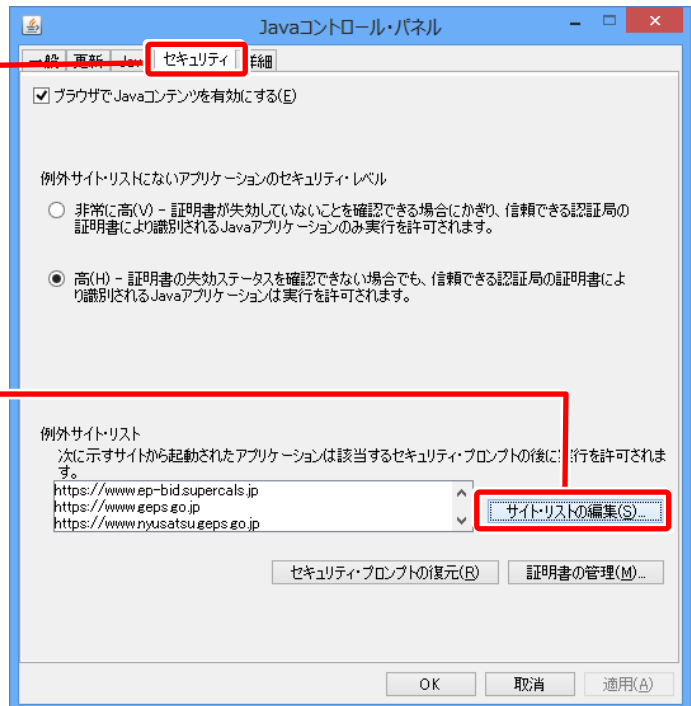
Step 1

「コントロールパネル」を開き、「Java」をクリックし、「Java コントロールパネル」を立ち上げてください。



Step 2

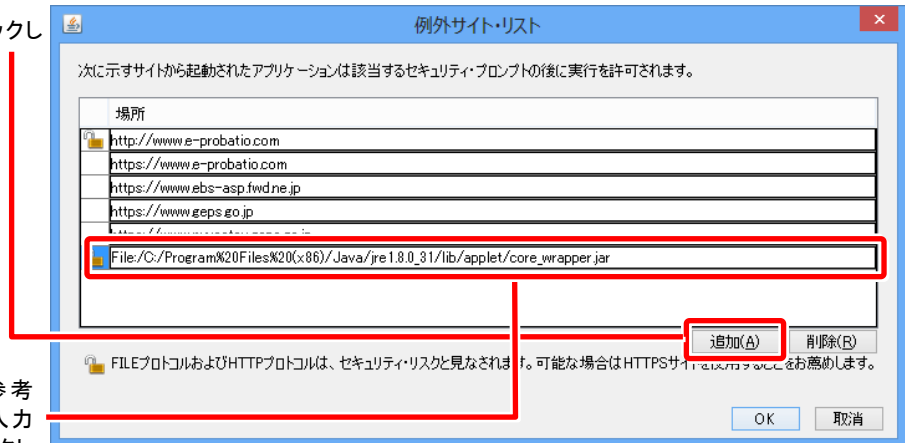
「セキュリティ」タブを選択してください。



Step 3

「例外サイト・リストの編集(S)」をクリックしてください。

Step 4 「追加(A)」ボタンをクリックしてください。



Step 5 以下のワンポイントを参考に、URL とファイル名を入力して、「OK」ボタンをクリックしてください。



ワンポイント

例外サイト・リストの追加について、下記の①、②、③を入力してください。

- ① <https://www.ep-bid.supercals.jp>
- ② <https://www.ep-bis.supercals.jp>
- ③ file:/C:/Program%20Files%20(x86)/Java/jre1.8.0_xx/lib/applet/各認証局固有のプログラム名

→③につきましては、「各認証局固有のプログラム名」の格納場所を含めたフルパスで、先頭に「file:/」を記載し、「¥」を「/」に、半角スペースを「%20」に変換して入力してください。

(注)

③の URL で下線のある箇所については、お使いのパソコン環境により異なります。

- C → JRE のインストール先のドライブ名
- Program%20Files%20(x86)
 - Program%20Files%20(x86) …64 ビットパソコンの場合
 - Program%20Files …32 ビットパソコンの場合
- jre1.8.0_xx ※0 と xx の間は「_」です。
 - 「xx」はインストールした JRE8 の Update「xx」の数字
- 各認証局固有のプログラム名
 - 各認証局の手順書等をご確認ください。

変換例: 64 ビットパソコンに JRE1.8.0_31 をインストールした場合

C:¥Program Files (x86)¥Java¥jre1.8.0_31¥lib¥applet¥各認証局固有のプログラム名

⇒file:/C:/Program%20Files%20(x86)/Java/jre1.8.0_31/lib/applet/各認証局固有のプログラム名

※③について、ご不明な点があれば、ご利用の認証局にお問い合わせください。

※ご利用の認証局によっては、例外サイト・リストが自動設定され、手動での追加が必要ない場合があります。



注意

JRE8 はリビジョン毎にフォルダが作成されるため、JRE8 をリビジョンアップすると、JRE8 のフォルダが追加されます。JRE8 をリビジョンアップする際は、電子入札システムクライアントソフトウェアを再インストールする必要がありますので、ご注意ください。

(古い JRE8 は動作不良の原因となる場合がありますので、アンインストールしてください。)

6. HTTPS トンネリングの Basic 認証無効化への対処

(JRE8 Update111 以後のリビジョンをインストールしている端末のみ)

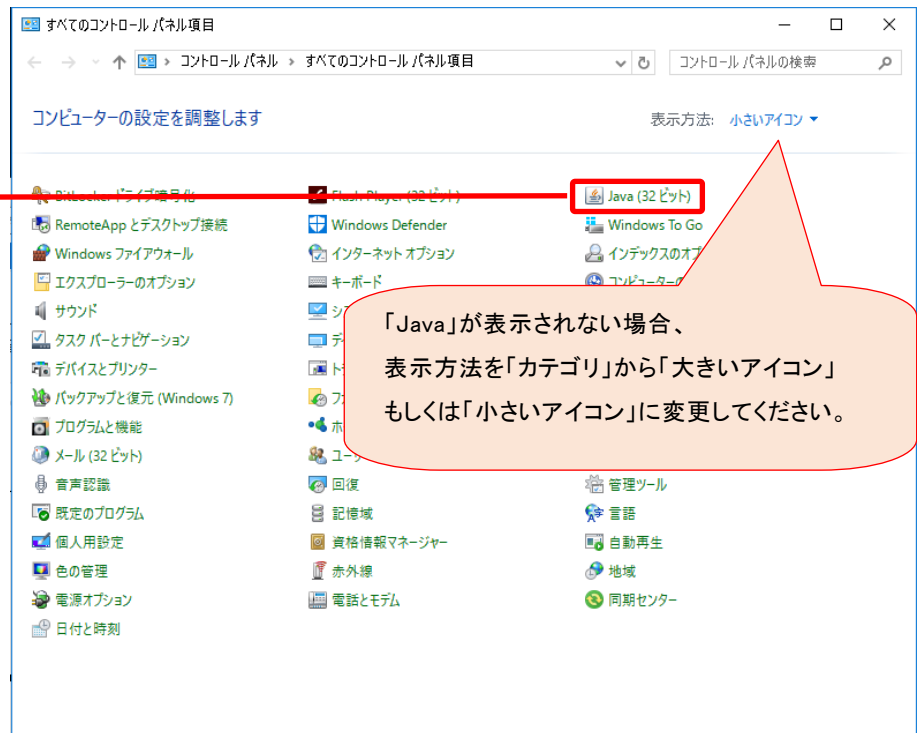
JRE8 Update111 より HTTPS トンネリングの Basic 認証無効化の影響によって、Basic 認証が必要な Proxy サーバ経由の通信ができない場合があります。

その場合、以下のいずれかの対処により回避可能です。

対処方法1 : JVM オプション設定による対処

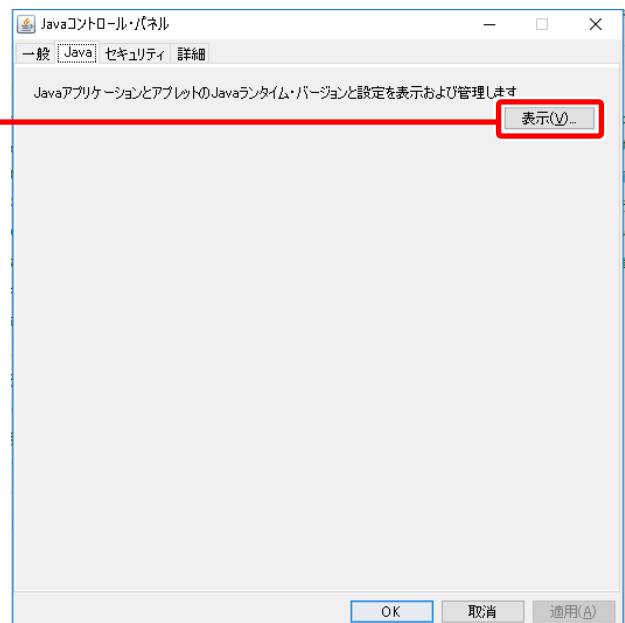
Step 1

「コントロールパネル」を開き、「Java」をクリックし、「Java コントロールパネル」を立ち上げてください。



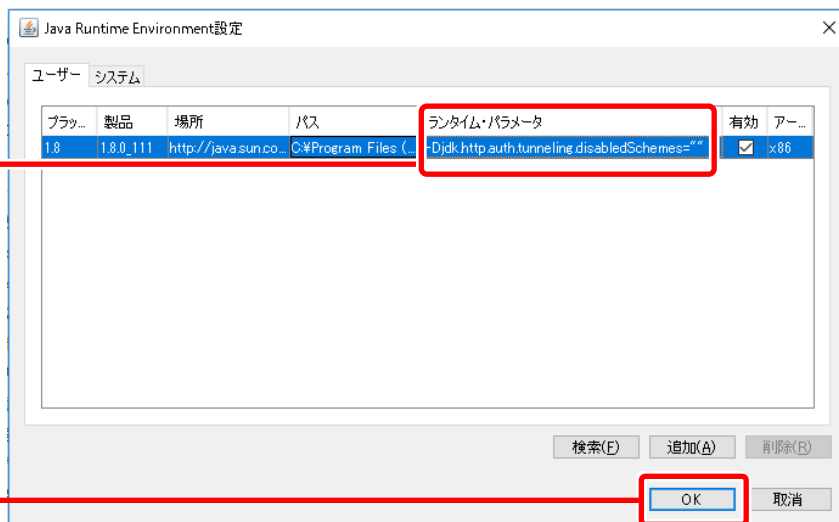
Step 2

「Java」タブを選択し、「表示(V)」ボタンをクリックしてください。



Step 3

「ランタイム・パラメータ」欄に
「-Djdk.http.auth.tunneling.disabledSchemes=""」
を入力してください。

**Step 4**

「OK」ボタンをクリックして
ください。

対処方法2 : 「net.properties」ファイルの修正による対処

以下ファイルを開き、対象行を削除もしくはコメントアウト(行の左端に「#」を追加)してください。

ファイル(32bitOS の場合) : C:\Program Files\Java\jre1.8.0_111\lib\net.properties
 ファイル(64bitOS の場合) : C:\Program Files (x86)\Java\jre1.8.0_111\lib\net.properties
 対象行 :jdk.http.auth.tunneling.disabledSchemes=Basic